

池島ゼミ地域経済プロジェクト

～箱根町の観光業依存とその特殊性～

谷合 南 古庄 萬谷 森 矢野

目次

1. 箱根町の比較対象となる観光地の選定
2. 選定した地域間での比較
3. アンケート調査およびヒアリング調査の結果
4. まとめ・考察

比較対象となる観光地

右の表に記載されている箱根町を含む19観光地を対象とする。

しかし、市・町・村と自治体の規模が異なる。



箱根町の比較対象として適切な観光地はどこか。

対象の観光地

本分析では、一般的に観光地とされている以下の19地域を分析対象としている。

No.	都道府県	市町村	主な観光資源・観光地	H27	H27	H27
				夜間人口 (千人)	宿泊・飲食サービス の従業者数 (千人)	観光入込客数 (千人)
1		函館市	五稜郭 (H25 : 152千人) 、赤レンガ倉庫	266	13.4	4,921
2	北海道	釧路市	釧路温泉、阿寒湖のマリエ	175	7.7	4,191
3		富良野市	ラベンダー畑、富良野スキー場 (プリンスリゾートエリア、R01 : 307千人)	23	1.3	1,856
4	栃木県	那須町	那須高原、那須温泉	25	3.7	4,802
5	群馬県	草津町	草津温泉 (H27 : 2,965千人) 、湯畑、草津白根山	7	2.3	2,965
6	神奈川県	箱根町	箱根温泉、芦ノ湖、大涌谷	12	7.6	17,376
7		笛吹市	石和温泉 (H27 : 2,236千人) 、浅間神社	67	4.2	2,236
8	山梨県	甲州市	勝沼ぶどうの丘 (H27 : 1,636千人) 、恵林寺 (H27 : 455千人)	32	0.9	2,090
9		山中湖村	山中湖 (H27 : 890千人)	5	2.1	780
10	長野県	軽井沢町	軽井沢高原、白糸の滝	19	4.8	8,365
11		山ノ内町	志賀高原 (H27 : 2,340千人) 、湯田中渋温泉郷 (H27 : 1,274千人)	12	2.1	4,616
12	岐阜県	高山市	三町伝統的建造物群保存地区 (H27 : 194千人) 、飛騨の里 (H27 : 181千人)	89	7.2	4,341
13		下呂市	下呂温泉 (H27 : 1,131千人) 、御嶽山	34	2.1	2,289
14		熱海市	熱海温泉	38	6.5	6,639
15	静岡県	伊東市	伊東温泉 (H27 : 7,042千人) 、宇佐美温泉	68	6.9	11,489
16		伊豆市	修善寺温泉 (H27 : 1,215千人) 、独鈷の湯	31	2.9	3,721
17	山口県	萩市	松陰神社 (H27 : 817千人) 、萩城跡 (H27 : 82千人)	50	2.5	3,066
18	長崎県	佐世保市	ハウステンボス (H27 : 3,088千人) 、九十九島 (H27 : 816千人)	255	10.1	5,920
19	大分県	別府市	別府温泉、由布岳	122	9.2	8,797



株式会社 価値総合研究所

出所：各観光地の観光入込客数は各市町村の観光入込統計、笛吹市、甲州市、山中湖村は「山梨県観光入込客統計調査報告書」

(「地域を強く。地域経済の分析セミナー
～地域づくりと地域経済の関係を紐解く～」

2022/3/7、日本政策投資銀行グループ、株式会社価値総合研究所 より抜粋)

宿泊業・飲食サービス業の事業所数・従業者数

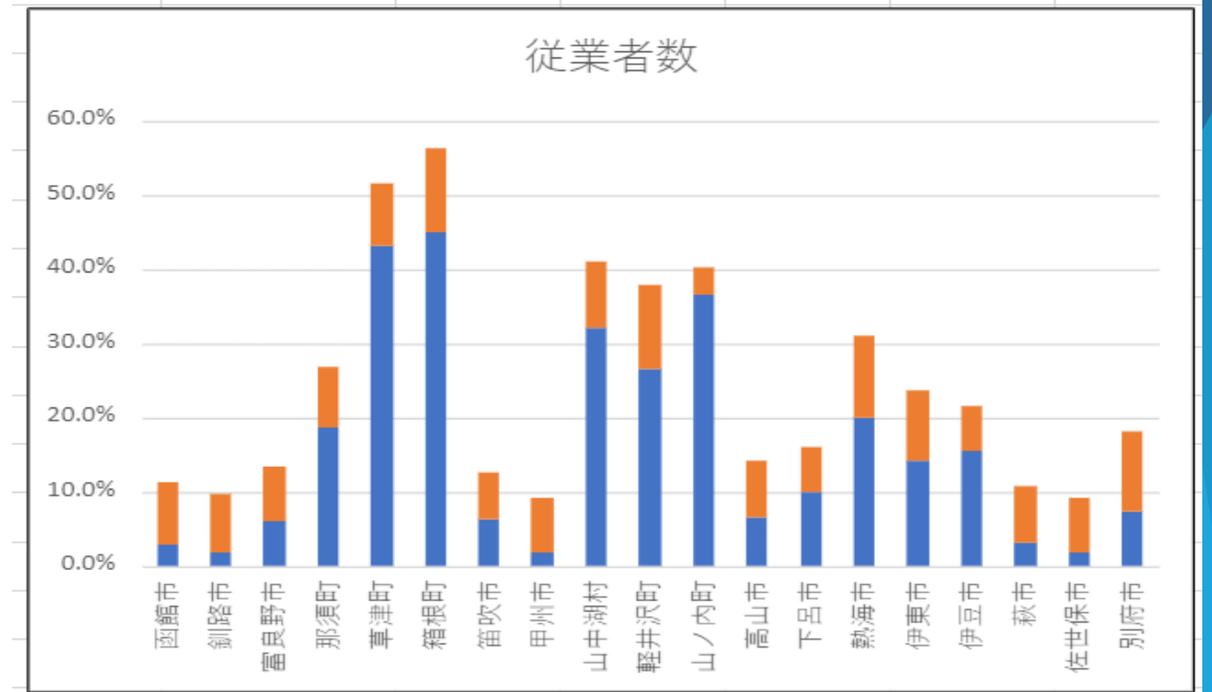
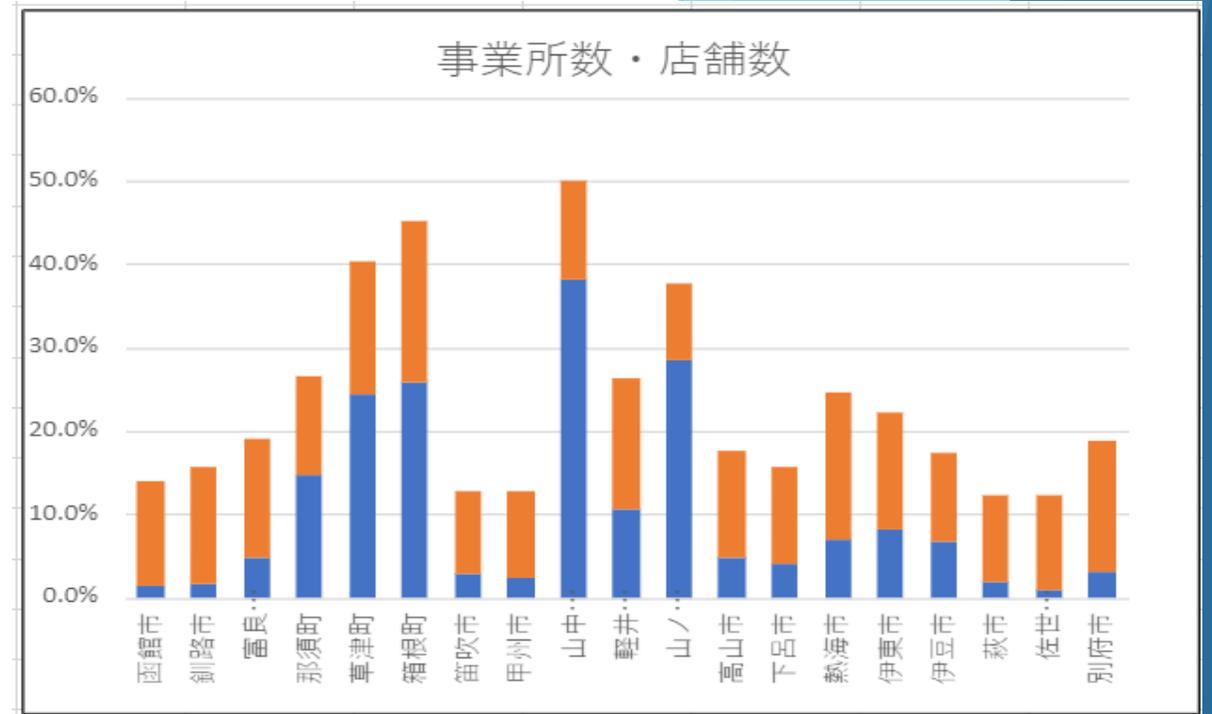
$$\frac{\text{宿泊業・飲食サービス業の事業所数・従業者数}}{\text{全産業の事業所数・従業者数}}$$

箱根町 事業所の割合 : 45.1%
従業者数の割合 : 56.3%

同様に比重が大きい市町村は

- ・草津町(事業所3位 (40.5%)、従業者2位 (51.5%))
- ・山ノ内町(事業所4位 (37.8%)、従業者4位 (40.3%))
- ・山中湖村(事業所1位 (50.1%)、従業者3位 (40.9%))

→宿泊業・飲食サービス業の比重が大きい上記3つの市町村が比較対象に最適。

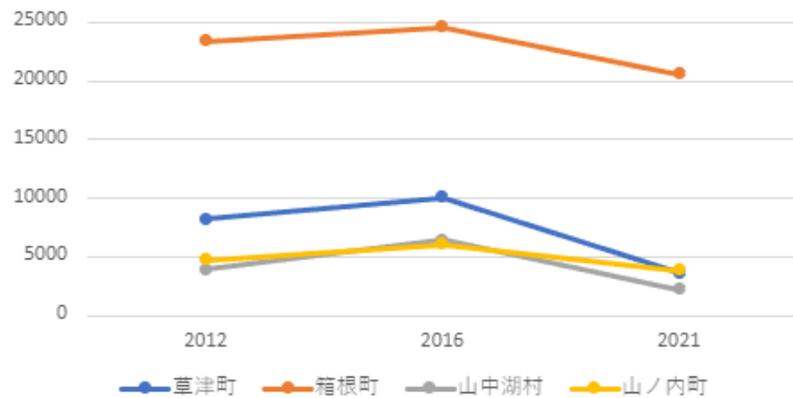


4観光地 比較(付加価値額)

事業所等に関する集計

事業所等に関する集計	2012	2016	2021	2016-2021変化率
草津町	8230	10030	3583	-64.277%
箱根町	23382	24556	20610	-16.069%
山中湖村	3883	6411	2213	-65.481%
山ノ内町	4724	6061	3795	-37.387%

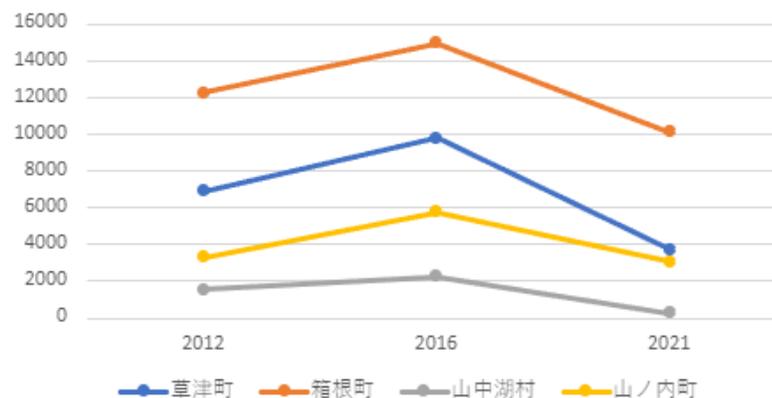
事業所等に関する集計 付加価値額



企業等に関する集計

企業等に関する集計	2012	2016	2021	2016-2021変化率
草津町	6926	9798	3717	-62.06%
箱根町	12264	14964	10135	-32.27%
山中湖村	1563	2255	255	-88.69%
山ノ内町	3291	5769	3044	-47.24%

企業等に関する集計 付加価値額



箱根町は付加価値額の減少率が他地域と比べて低い

なぜ箱根町は付加価値額の減少率が小さいのか

宿泊業・飲食サービス業付加価値額 ÷ 観光消費額（宿泊費、飲食費）

観光入込客数 × 一人当たり観光消費額

観光総消費額

(RESAS_観光政策「地域が観光で稼ぐための政策立案に向けて」東京都立大学都市環境学部観光科学科 清水哲夫教授より抜粋)

観光入込客数の変化

$$\text{観光入込客数} \times \text{一人当たり観光消費額} = \text{観光総消費額}$$

仮定：一人当たりの観光消費額は定数

箱根町の観光入込客数の減少率は草津町と比べて大きい



付加価値額の減少率も箱根町の方が大きくなるのではないか。

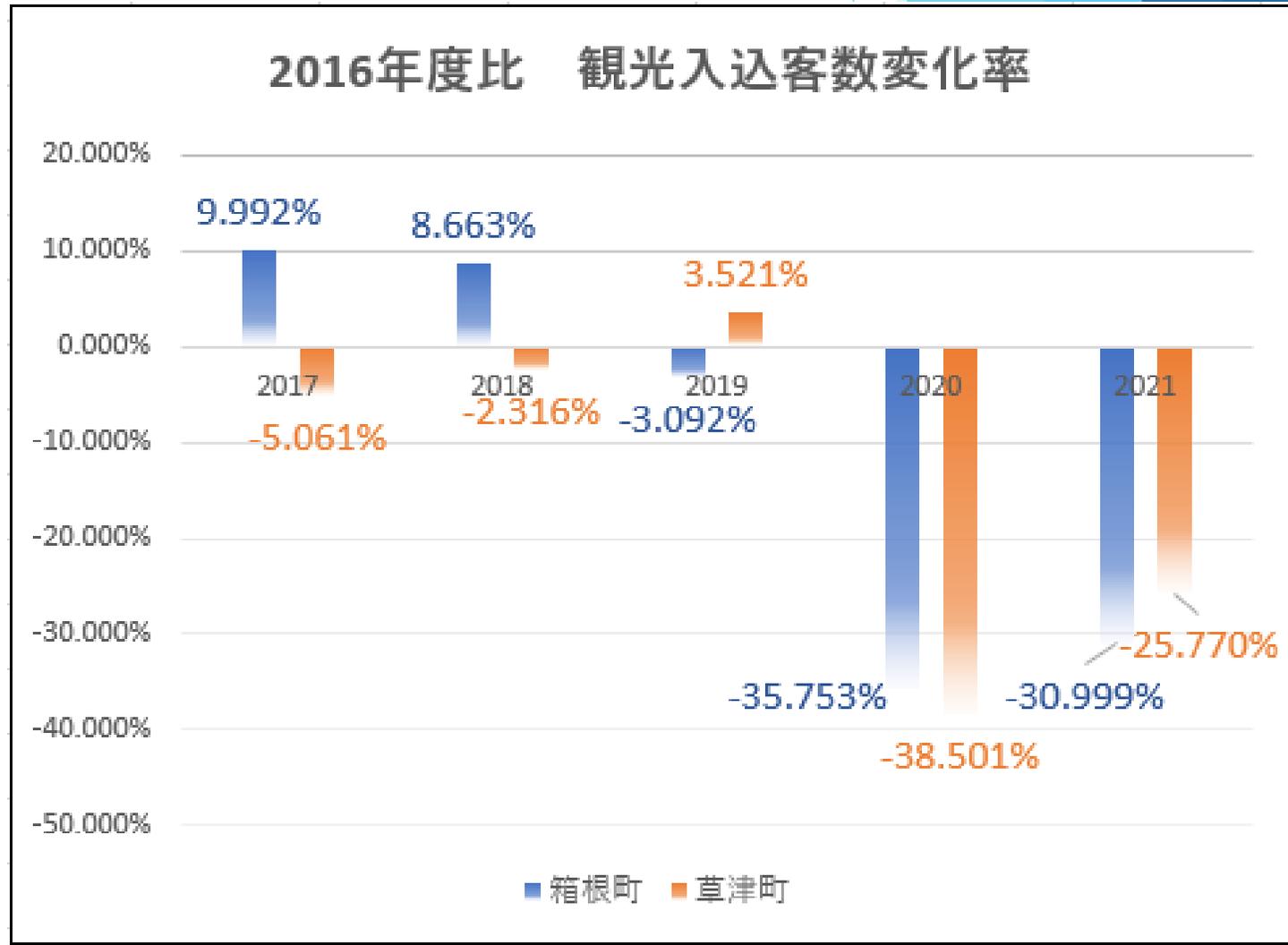


しかし、実際の付加価値額の減少率は

箱根町 < 草津町



箱根町の観光消費額に影響を与えているのは一人当たりの観光消費額と予測できる。



一人当たりの観光消費額

1人あたり観光消費額（宿泊費・飲食費）の増加率

箱根町：116% 熱海市：113%

高山市：103% 下呂市：107%



$$\text{観光入込客数} \times \text{一人あたり観光消費額} = \text{観光総消費額}$$

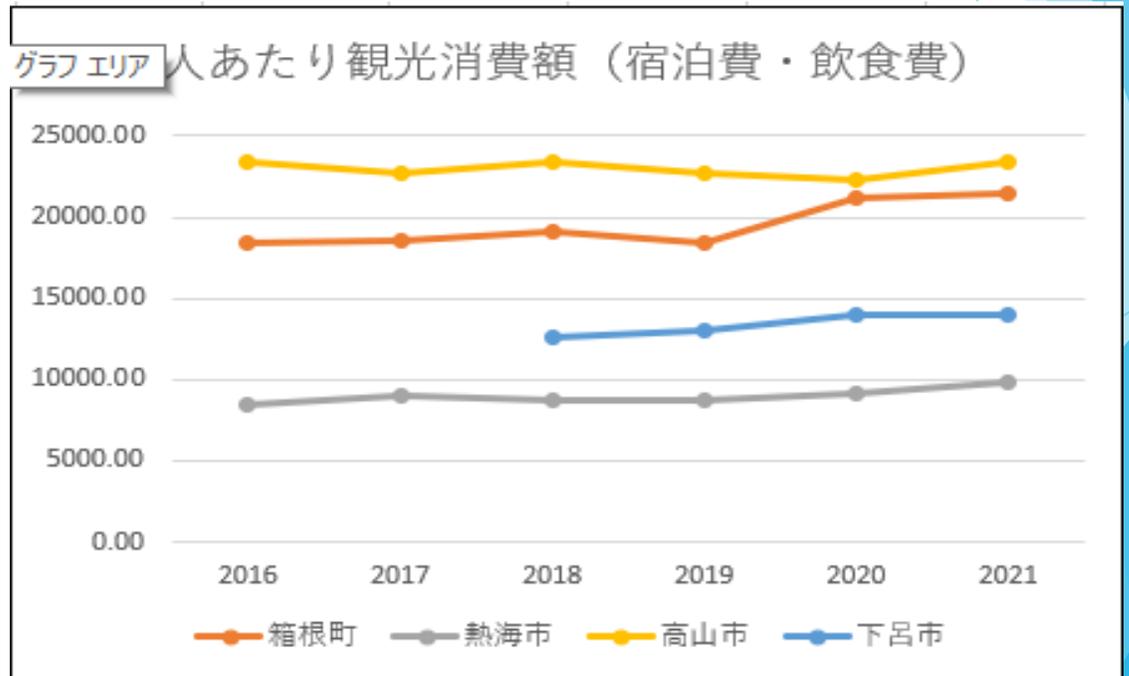
箱根町

観光入込客数の減少率は大きいにも関わらず、観光総消費額の減少率は小さい。

⇒一人当たりの観光消費額の増加率が他の観光地と比べて大きくなっている。

2016年～2021年の一人当たりの観光消費額の推移

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
箱根町	18441.13	18546.84	19047.53	18468.06	21194.03	21454.90
熱海市	8453.99	8947.14	8722.62	8773.81	9121.73	9886.86
高山市	23436.00	22681.00	23365.00	22683.00	22354.00	23385.00
下呂市			12665.00	13068.00	14015.00	13939.00



アンケート及びヒアリング調査の実施

アンケート調査(google form で実施)

- ▶ 調査対象：箱根町で宿泊業を営む宿泊施設
- ▶ 調査期間：2月下旬ごろ
- ▶ 回答数：7（湯本：4、仙石原：2、強羅：1）
- ▶ 目的：前頁の仮説の検証および各要因の分析
- ▶ 主な調査事項
 - ・ 1人当たりの1泊の宿泊費および飲食費（上昇率とその要因）
 - ・ 2019年度(コロナ前)と2021年度(コロナ禍)の客室稼働率
 - ・ 旅行者による旅行支援の利用率や売上に占める割合

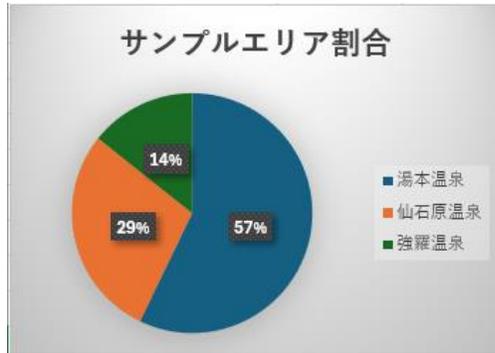
ヒアリング調査(対面及びzoomでの実施)

- ▶ 調査対象：回答者から抽出
- ▶ 調査機関：3/13 箱根ゆとわ
3/18 箱根パークス吉野
- ▶ ヒアリング内容
 - ・ 2019年度と2021年度の営業
 - ・ 1泊当たりの宿泊費の変化とその要因
 - ・ 旅行支援その他の取り組み
 - ・ 外国人観光客（インバウンド）

アンケート集計結果

回答サンプル概要

回答数...7(エリア内訳：湯本温泉4/仙石原温泉2/強羅温泉1)

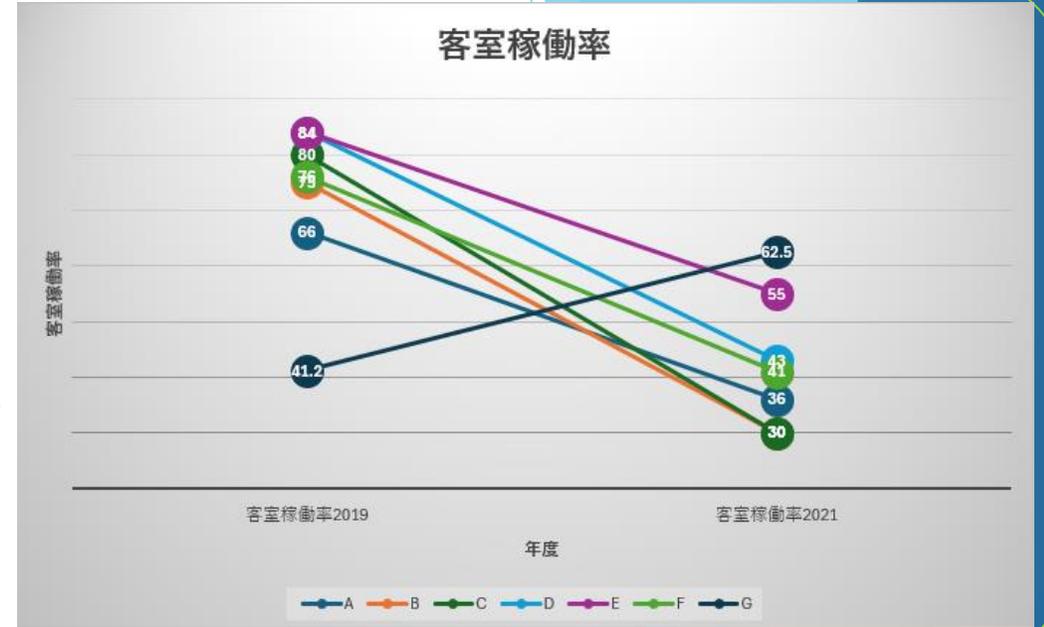


客室稼働率の変化

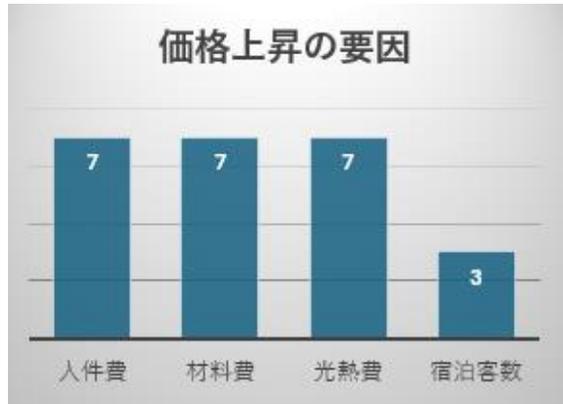
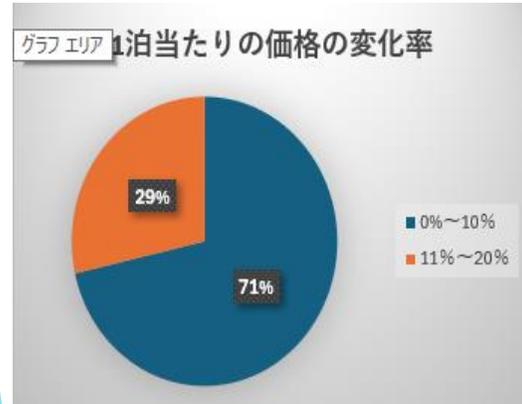
2019年平均客室稼働率：**72.3%**
2021年平均客室稼働率：**42.5%**

多くのサンプルにおいて客室稼働率は2019年から2021年にかけて大きく減少した。

一方で、「事業所G」は41.2%から62.5%とおよそ1.5倍の増加となった。

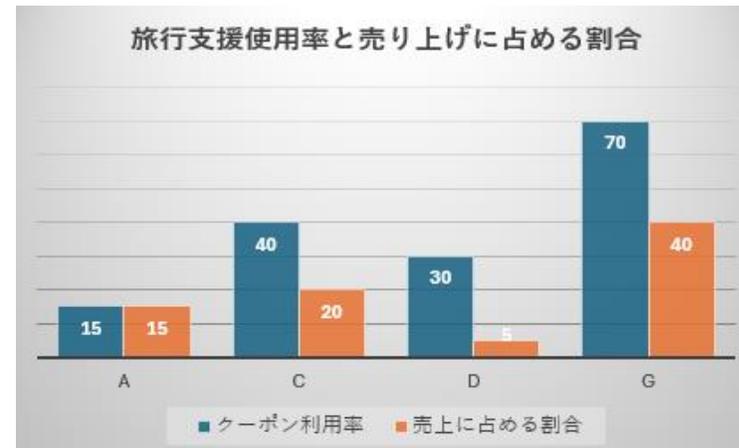


1泊当たりの価格(宿泊費及び飲食費)の変化



すべての宿泊施設で宿泊費及び飲食費は上昇していた。要因として、人件費・材料費・光熱費の他に、1室あたりの宿泊客の減少を回答した宿泊施設もあった。

旅行支援利用率及び旅行支援の売上に占める割合



旅行支援利用率及び売上に占める割合は「事業所G」が他のサンプルと比較して大きい結果が得られた。

(旅行支援利用率及び売上に占める割合のサンプル数は4となった。)

まとめ・考察

アンケート調査・ヒアリング調査を実施した結果、箱根町の観光業において「一人当たり観光消費額」は10～20%増加していた。

また、その要因として「人件費の増加」や「材料費・光熱費の高騰」が大きな要因となっていた。



宿泊費や飲食費が増加したとしても、多くの観光客が箱根町を訪れ、消費活動を行ってもらえることが箱根の強みなのではないか。

箱根町の強みとは

▶ 箱根町への訪れやすさ

...新宿から小田急小田原線で簡単に行くことができる。また、新幹線や在来線特急を使って遠方からでも小田原駅まで素早く移動できる。

〔箱根ゆとわ 宮越様〕

「東京に宿を取り、滞在中の中日に箱根を訪れる外国人観光客が多くいらっしゃる」
⇒**東京都からの訪れやすさが外国人観光客が多い理由の1つなのではないか。**

▶ 小田急グループの存在

...グループ会社が運営する施設も箱根にはいくつか存在する。また、箱根町の移動手段である登山鉄道やケーブルカーの運行も小田急が行っている。

⇒**企業と自治体が連携し、コロナ禍を箱根町一体となって乗り越えようと動いた部分もかなり大きいのではないか。**

今回の調査研究の留意点と今後の課題

▶ アンケート調査のサンプルの偏り

2019年度の客室稼働率は強羅エリアとその他エリアでは大きな差異が生じていた。

⇒強羅エリアのその他施設においても「箱根ゆとわ」と同様の動きをしていたのか検証する必要性がある。

⇒もしエリアごとに異なる動きをするのであれば、今後の調査研究ではいくつかのエリア毎に財政状況を調査することも重要なのではないか。

▶ 比較対象とした地域のデータ収集不足

e-statや自治体・DMOへの依頼を通じてデータの収集を行ったが、思っていた以上にデータが集まらなかった。

⇒経済センサスを主に扱ったため5年間隔となった。そのため、如何にして5年間のデータを補完し、より詳細な分析を行うかが課題として残った。